

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立曳馬小学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ・第2期となるので、新しい委員と学校の情報共有を心掛け、子供たちのために協力体制をつくる。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・「はままつの教育が目指す子供の姿」や「曳馬中校区が目指す子供の姿」を提示された上で曳馬小学校運営の基本方針を知ることができたので、より理解が深められた。現在の子供達の特性に目を向けた方針に共感がもてた。
- ・学校教育目標「未来をえがきのびやかに学ぶ曳馬っ子」を更に4つの目当てに分かりやすく記され、学校、児童が目指す方向が明確となりそれを基に改善点なども熟議できた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・企業の皆様へのCS協力要請の仕方や、委員が知る企業の特性や理念などの情報と共に、地域や保護者への積極的な依頼の手法について熟議ができた。
- ・地域や学校との連携がよりよく進むようになっていくことで、学校支援活動がもっと充実していくと感じたが、実際は学校での子供の様子が十分にわからない中で地域が関わるためには、先生方の声をもっと聞けるといいと感じた。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・自治会役員会や自分の趣味の会等の中で、学校やCSの話をお話する機会があるごとに情報発信した。さらに地域のシンボルである学校の重要性や教職員の頑張りを説明した。著しい社会情勢の変化の中で、PTAや学校を取り巻く環境の変化など重要事項の情報発信もした。
- ・地域の福祉協議会の会議等で支援活動について話し協力を依頼した。たくさんの地域住民の方々に学校運営に協力的になってもらえるように発信していきたい。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- ・CS協力事業に多くの方に参加していただける手法を実施する。
- ・学校教育目標の実現に向け、地域・学校との連携をしっかりとるためのパイプ役になる。そのために、学校の取組、子供の実態、保護者の願いをもっと知らなくてはならない。また、運営協議会委員が学校に足を運ぶ機会を増やす。
- ・第2期の初年度を通して協議の場で学び合えたことを大切に、曳馬の子供たちのために大人の協力体制をさらに強めていく。